

編集後記

残暑がついに遠のき、当地でもようやく短い秋の爽やかさが感じられる時期になりました。とは言えマスクは外せず世間で盛り上がるGoToトラベルを使って遠出もできずの因果な商売ではあります。

そんな中、宇根先生が誌上ギャラリーへお寄せくださったサントリーニ島クルーズの景色に心癒やされました。たった1年で世界の何と変わったことか！

論説と話題は市民健康まつり特別企画オンラインシンポジウムのご報告と新型コロナウイルス感染症に対する新たな体制整備に係る説明会の内容です。市民の方々には新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を得ていただき、我々医療者はインフルエンザ流行期を前に効果的な検査診療体制を整える必要があります。今月から新型コロナ検査を含む発熱外来を設置された施設も多いかと存じます。時間的空間的分離に配慮し、院内感染の防止に十分気をつけて頑張りましょう。

トピックスは天文館商店街振興組合連合会から感染症対策等への寄付金受領のニュースでした。有り難いことですね。

学術は3題です。まず今給黎総合病院脳神経内科からは脳梗塞との鑑別を要した脊髄硬膜外血腫の1例をお寄せいただきました。脳梗塞加療目的で抗凝固薬使用中に四肢の疼痛や神経障害症状を呈した場合脳梗塞再発との鑑別が重要となります。続いて同院外科から白線ヘルニアの一手術例の紹介です。上腹部に多く、ヘルニア内容と腹壁の連続性をみるためCT等の画像診断が重要で早期の手術治療が第一選択です。最後に鹿児島生協病院から病理検体によるバイオマーカー検査結果の検討をご報告いただきました。悪性腫瘍に対する分子標的治療可否を評価する検査ですので精度確保が重要となります。

医師会病院だよりは緩和ケア科の紹介です。特色・業務内容・課題等を挙げてくださいました。また、医療法施行規則一部

改正を機に診療放射線室から放射線診療(CT検査)における医療放射線被ばく線量の説明をいただいています。引き続き患者さんご紹介の程よろしくお願ひ致します。

隨筆・その他はお馴染み古庄先生の「切手が語る医学」で医師・偉人・著名人・科学者にまつわる切手をご紹介いただきました。武元先生からはビタミンB₁₂低下による易感染性が示唆される症例をご提示いただきました。モーツアルトのクラリネット協奏曲に寄せる川畠先生の思いにお勧めの名演を聴いてみたい気分になり、神田先生がリレー隨筆に記された「質を担保するために量をこなす」という考え方で研修当初を懐かしく思い出しました。先生方、ご寄稿ありがとうございます。

相変わらず支部会等がほとんど行われておりますが、区・支部だよりに今回掲載された市内科医会例会はWeb開催で鹿児島大学病院の西教授から当県のCOVID-19の現状と外来診療上の課題について貴重な講演をいただいたようです。内容要約・見慣れないWeb配信風景・論説と話題欄の新体制整備説明会内容と合わせてぜひご覧ください。

各種報告は理事会概要、第19回鹿児島市域糖尿病医療連携体制講習会の模様、委員会報告です。附属施設だより、新入会員紹介等当会の動きも掲載されています。

鹿市医郷壇の投稿者が少数精鋭化していると言われて久しいです。かごま弁に疎い世代でも選評共々楽しめます。我と思わん方々、奮って力作をお寄せください。

たとえコロナ後の世界が元に戻らないとしても、美しい秋の景色も美味しい季節の食材も外出機会の減った夜や週末に楽しむ趣味や勉強も（わずかな制限こそあれ）大きく変わることはありません。皆が自らを鼓舞し周囲を応援しながら実りある毎日を過ごせますように…。

(編集委員 關根さおり)